



西おきたま 雪若丸だより

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト置賜地域本部 西置賜農業技術普及課

「雪若丸」の安定生産に向けて 生育診断により適正な生育量を確保しましょう。

1 生育状況（6月17日現在）

管内の多くの「雪若丸」は、6月上旬からの低温等の影響により、指標値に比べ生育が遅れ、茎数が少ない状況です。当面の間、有効茎の確保が最優先となります。

西置賜農業技術普及課「雪若丸」生育調査ほ場の状況

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
飯豊町	28.4	428	8.2	44.9
長井市	27.1	160	7.0	38.7
白鷹町	22.7	308	7.2	40.9
指標値	30.0	394	7.6	41.2

「雪若丸」栽培の時期別指標（内陸）

	6月10日	6月20日	6月30日	7月10日	7月20日	出穂期	成熟期
草丈(cm)	25	32	41	52	64	8月2日	稈長 70
茎数(本/m ²)	240	460	590	620	600		穂数 560
葉色 (SPAD)	37	43	43	41	41		
葉数(枚)	6.4	8.1	9.3	10.4	11.6	13	(止葉 葉数)

2 生育が不足した場合の対応技術

- 土壌の異常還元（ワキ）が見られた場合は、速やかに田干しや夜間落水で、根圏環境の改善を図ります。
- 根圏の改善を図った後は、水深2～3cmの浅水管理で分けつを促進します。
- 上記の対策を行ってもなお、6月20日頃の生育が下表より不足している場合は、収量低下の可能性が高くなるため、**窒素成分量1kg/10a程度を補完施用**し生育量を確保します。

茎数		葉色
m ² 当たり	300本以下	40以下 (SPAD)
株当たり	17本以下 (坪60株植)	
	14本以下 (坪70株植)	

3 目標茎数を確保した後は、直ちに中干し・作溝を行いましょう。

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が多い場合や、葉色が濃い場合は →やや強め
- 生育量が少ない場合や、葉色がさめかかっている場合は →弱め

4 穂肥に向けた「雪若丸」の生育診断について（6月30日頃）

【前提条件】

- 中干しを行い、土壌環境を整え、上根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げましょう。
- 幼穂形成期まで葉色（SPAD値）を40未満に低下させない。
「はえぬき」より、生育量が多くても、中干しの強度を上げすぎない。
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。
偏穂数型でm²茎数は「はえぬき」より、多くなる。

【生育診断のポイント】

- 穂肥は出穂25日前、窒素成分で1.5kg/10aを基本としましょう。
生育診断結果により、次のように対応しましょう。

生育量	茎数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (8月4日出穂想定の場合)
適正	560~750本/m ²	40~44	出穂25日前 (7月10日頃) N成分1.5kg/10a
生育不足	560本/m ² 未満	40未満	早めの穂肥 出穂30日~26日前 (7月5日~7月9日頃) N成分1.5kg/10a
生育過剰	750本/m ² 以上	44以上	出穂25日前 (7月10日頃) 葉色の低下を確認し、減肥対応 N成分1.0~1.2kg/10a

いもち病・斑点米カメムシ類に注意！

補植用取り置き苗から葉いもちが確認されています。ほ場に残っている場合は速やかに除去しましょう。葉いもちは、早期発見・早期防除が重要です。

斑点米カメムシ類は、やや多い傾向です。畦畔の草刈りを徹底し生息密度を下げましょう！